

30年5月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 5月1日～ 30年5月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は10社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		30/5月	6月	7月
伐採動向	スギ	△ 21.4	△ 14.3	0.0
	ヒノキ	△ 10.0	△ 10.0	△ 10.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 16.7	50.0	50.0
出荷・販売動向	スギ	△ 7.1	0.0	7.1
	ヒノキ	10.0	10.0	0.0
	カラマツ	△ 16.7	△ 33.3	△ 33.3
	エゾ・トド	16.7	66.7	50.0
手持立木 在庫動向	スギ	△ 25.0	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 12.5	△ 25.0	△ 12.5
	カラマツ	△ 33.3	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 50.0	△ 33.3	0.0

・スギの伐採動向は5月、6月の減少から7月は横ばいに。ヒノキ、カラマツとも3カ月連続減少。エゾ・トドは5月の減少から6月、7月は増加に。

・スギの出荷・販売動向は5月の減少から6月は横ばい、7月は増加に。ヒノキは5月、6月の増加から7月は横ばいに。カラマツは3カ月連続減少。エゾ・トドは3カ月連続増加。

・スギの手持立木在庫動向は5月の減少から6月、7月は横ばいに。ヒノキ、カラマツとも3カ月連続減少。エゾ・トドは5月、6月の減少から7月は横ばいに

モニターからのコメント

(伐採動向)

・5月15日付で生産請負事業を契約したが、伐採等の現場作業は6月から開始予定。このため手持立木のエゾ・トド間伐については一時休止することとなり、伐採はしていない（北海道）。
・トドマツ間伐を実施中。天候にも恵まれ伐採動向はやや増加。需要が多く翌月以降も増加傾向が続くと思われる（北海道）。
・スギ、カラマツとも次月以降は伐採減少の見込み（東北）。
・今月より地拵、植付の作業中（東北）。
・生産請負を受注（中部）。
・主に広葉樹林の皆伐を実施しているため、スギ・ヒノキとも減少。1班はスギ・ヒノキ、もう1班は広葉樹（中国）。
・スギ主伐を実施中（中国）。

(出材・販売動向)

・3月15日から5月末日まで融雪期の林道通行止めのため、当月の出材見通しは減少である。しかし、トドマツの需要が多いので6月から販売は増加の見通しである（北海道）。
・出材については予定なし。販売は3～4月伐採のエゾ・トド間伐材の販売が増加する（北海道）。
・スギ、カラマツともに出材・販売は堅調（東北）。
・ストックしてある材を出材中（東北）。
・韓国へヒノキを輸出（九州）。

(手持立木在庫)

- ・伐採が順調なため手持立木在庫動向は減少である。7月の国有林の立木公売で補充する予定（北海道）。
 - ・3～4月に伐採した分だけ手持在庫が減少した（北海道）。
- スギ、カラマツともに手持立木在庫はやや不足する見通し（東北）。
- ・手持立木在庫はゼロ（中部）。
 - ・6月、7月期の入札にてスギ立木を落札予定（九州）。